

令和5年度 建設工事従事者の安全及び健康の確保並びに

処遇の改善に関する徳島県計画推進会議 議事概要

日 時：令和6年1月11日（木）午後1時30分から午後2時30分まで

場 所：徳島県庁 11階講堂

出席者：[委員]金井委員、小島委員、佐藤委員、土橋委員、橋本委員、松島委員、南委員
(欠席) 井川委員

[オブザーバー]国土交通省四国地方整備局建政部計画・建設産業課長、
徳島労働局労働基準部健康安全課長、
徳島県商工労働観光部労働雇用戦略課長（代理）

発言者	議事・発言内容
(1) 徳島県計画の進捗状況について	
事務局	(資料1の説明)
委員	建設Gメンによる立入検査で指導改善を行った件数はどれくらいあったのか。
事務局	建設Gメンは、県で一定のルールをつくり、抜き打ちで検査をするという形で実施しており、施工体制の調査や安全性ができているかを確認しています。施工体制調査147件のうち、問題があった箇所は19箇所ありました。内訳として多いのが、現場で名札を付けていない、施工体制台帳が現場に設置されていない、監理技術者証を持っていないというようなところで、こういうことに対して現場でしっかり指導させていただいております。
委員	<p>まず、1番の下請代金のうち少なくとも労務相当分を現金払いのところ、中央建設業審議会から答申があり、国交省の方で労務費単価については、中央建設業審議会が標準労務費を示すと、その示したお金をきちんと払ってくださいというやり方にしましょうということを決めております。そのあり方については今後検討するというので、積算体系が労務費とそれ以外のもの、2つに分かれていくという風に解釈しており、1年ぐらいかけてやっていくように思っておりますので、ここを注視しながら今後のこの計画の中に取り入れてもらえたらなと思っております。</p> <p>それと、労働災害のところ、去年は熱中症が多く発生して、四国だけでなく東北、北陸、中部、結構あったものでございます。ここで入職促進というところから、各企業が求人をしたが建設業には来ない。なぜかという熱中症で搬送されたり、WBGTが31以上だと、厚労省は外出を控えなさい、日本体育協会は運動を中止しなさいということを出しているのに、建設業だけがなんで働いているんだということで、そういうところに行きたくないというのが現状で、私どもから国交省に説明させてもらったんですけど、熱中症対策としてWBGTが31以上あるような日については、現場を休んで傍から見てきちんと対処しているような施策を出してくれと、要望を出させてもらってます。現実的には、沖縄は亜熱帯割増というのがありまして、土木歩掛の25パーセント増額されております。</p> <p>そういった導入も含めて、来年度は熱中症対策としての経費の使い方をきちんと出してくれと、WBGTが31の時は現場を止めて工期を伸ばしながらやってくれ、という要望をさせてもら</p>

っています。

それと、キャリアアップシステムですけれど、当然、私どもも過去3年間取り扱い窓口も設けさせていただきましたし、説明会も順次開催させていただいております。キャリアについては、今後、発注者側の導入とその導入によるメリット、簡素化等のメリットについてある程度お話しをいただけたらなと思っております。

DXにつきましても、国を挙げてDX化を進めようとしているわけで、業界も逃すことなくやっていきたい。DX化っていうのは、裏を返せば見える化でございますので、責任の所在を明らかにしていく、発注者、受注者、あとははっきりしていくということになるかと思っておりますので、この辺りの責任の範囲の明確化っていうのが、急の課題であると思っております。これは進めざるを得ないと思っております。

参考：<https://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/nousui/nns/qwtopics/pdf/anettai.pdf>

委員

現場にWBGTを測る機械を置いて、何度になったっていうのは継続しながらの仕事にはしていませんけど、これでこの日休もうというのは現実的には厳しいかなと思います。休憩を長くしたりテントを置いてというのを今のところはしています。

委員

弊社は、土工の方はそんなに大規模な工事はしておりませんので、導入がまだ進んでないのは正直なところ。大きい現場をされている会社とかだと結構導入されているところもあったり。取り組んでいるところと気にしてないところと、すごい差が出てくるのではないかなと思っております。

今までしたことなかったことに、特に年配の方とか抵抗を示される方が多いかなと思いますので、そこをいかに理解してもらっていかってところを根気強く説明して、システムもできるだけ簡単なものになっていけば、取り組みやすくなるのかなとは思っています。

委員

弊社も若者や高校生向けの建設工事現場見学会などに若手が参加させていただきました。コロナがあけて、身近な先輩が高校生に伝えることは、YouTubeなどを見て知ることより印象に残りやすいと思いました。リアルに体験をすることや話を聞く機会が本当に重要だと思います。弊社としても参加して良かったと印象がすごく良かったです。こうしたイベントは企画が大変だと思いますが、入職促進に向けていろいろご準備いただけたらと思います。

息子の学校でドローンの体験がありました。それはすごく良かったですね。体育館の中でドローンの操作をするイベントでした。

委員

労働災害件数についてですが、私も安全パトロールを何度か行かせていただくんですけど、リスクアセスメントをやってないところが多いです。リスクアセスメントは、努力義務なので法的な強制力はないんですが、労働災害を減らすためには、事前にどういうリスクがあるのかをまず現場でやるというのが1番大事なことはないかなと感じております。それで、安全施工サイクルっていうのがありまして、ミーティングとかやっている中で、危険予知活動とかもされていると思うんですが、働き方改革等で余力ができた時間を利用して、リスクアセスメントを実施していくような活動を、ぜひとも周知というか徹底していただけたらなという風に考えております。

委員

リスクアセスメントって言うと、ある程度人数が集まってみんなで討議して、どういうリスクがあるのかということについて協議しなければならないので時間もかかるし、人も集めなければならないということで、時間と工数、結構かかると思います。少し大掛かりなところもあると思うんですけども、その現場へ行く前に今日の危険な箇所について、まず危険なポイントはないかとか、今日はこういうことに注意して作業するんだということを、施工サイクル

<p>委員</p>	<p>の中で、朝のミーティングでやっていただくということを徹底すれば、簡単にできるんじゃないかなと思います。</p> <p>この計画の取組を拝見させていただいて、キャリアアップや週休2日制のような制度も取組まれているというのは分かったのですが、私たちが実際の企業に行った時には、「週休2日制はわかるし、休みを増やさないと若い人が来ないことも分かる。だけど、昔からずっと日給で払ってるんだ、だから休日を増やすと言ってもみんな働きに来てしまう」みたいな話があって、賃金の払い方といった労務管理の方法も一緒に取り組んでいかないと進んでいけないのではないかと思います。月給制に変更するにもどのような制度にすればいいのかとか、休みが多い時はどうすればいいんだとか。お客様のところではいろんな質問が出ますので、できれば労務管理についても一緒にアドバイスできるというのではないのでしょうか。建設業協会さんにもご協力いただいて、働き方改革推進支援センターを労務管理の相談窓口にしていただくという取組を一緒にさせていただいておりますが、まだまだアプローチできてない会社が多いというのを感じております。今後、その辺をどのようにするかということも考えていただきたいと思っております。</p>
<p>(2) その他</p>	
<p>委員</p>	<p>市町村の指導というか周知徹底をぜひともお願いしたい。市町、整備局でも懸念があって、それぞれご指導いただいているところですが、その意識が薄いのかなど。もう少し市町村の人がやってくると建設業の中小企業の皆さんが、もっと真剣に取り組んでくれるようになるのではないかなと思っています。ある町では最低制限価格の無いようなところも未だにありますので、その辺りの指導も含めて公共に限ってですけども、やっていただければ民間工事の方にも効果は現れてくると思いますのでよろしく申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>最低制限価格の設定、低入札価格調査基準価格の設定がされていない、または低い値になっているというのはまさしくダンピングに繋がるということで、ダンピングに繋がるということは、賃金の行き渡りに繋がるということになってきますので、県としても最重要課題といたしまして、12月に開催した品確協徳島県部会におきまして、市町村の方にはっきりダンピングに繋がるという趣旨のことを言わせていただきました。ただ、この部会に来られている方は事務担当の方ということもありますので、直接市町村に行って、できるだけ上の方に説明して、こういうことを解消できるようにしっかりやらせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>